

研究報告書

研究課題：B（一般）

（平成26年度）

平成28年 4月30日

公益財団法人 がん研究振興財団

理事長 高山 昭三 殿

研究施設 神戸大学医学部附属病院

住 所 神戸市中央区楠町7丁目5-2

研究者氏名 高橋 美貴



（研究課題）

中咽頭癌に対する化学放射線療法におけるQOLに関する研究

平成27年 2月 6日付助成金交付のあった標記指定課題について研究が終了致しましたのでご報告いたします。

平成 26 年度がん研究助成金 研究課題：B（一般）

研究成果報告書

研究課題：「中咽頭癌に対する化学放射線療法における QOL に関する研究」

研究施設：神戸大学医学部附属病院 耳鼻咽喉・頭頸部外科

研究者氏名：高橋美貴

研究目的

近年、機能と形態の温存を目指して、局所進行頭頸部扁平上皮癌の治療法として化学放射線療法(CCRT)が選択されることが多くなってきた。しかし、口腔や中咽頭への CCRT では、唾液分泌能の低下による口腔の乾燥や、嚥下に関わる筋組織の纖維化による嚥下機能の低下、味覚障害などにより、治療終了後も通常の食生活に戻るのが困難なことも少なくない。「美味しく食べる」ことが障害されると「生活の質（QOL）」は著しく低下する。こうした背景から、申請者らはこれまで、中咽頭癌に対する CCRT 症例に対して摂食嚥下訓練を積極的に行い、その有用性を報告してきた(高橋（常行）美貴 頭頸部癌 38:336-342 2012、常行美貴 頭頸部癌 37:116-120 2011、常行美貴 耳鼻と臨床 56:S240-S245 2010)。強度変調放射線治療 (Intensity Modulated Radiation Therapy: IMRT) は、コンピューター制御により放射線を腫瘍に集中する新技術のひとつであり、従来の照射法と比較して、腫瘍制御率の向上や副作用の軽減が期待される。特に頭頸部では、腫瘍の局所制御のために必ずしも必要としない唾液腺や嚥下に関する筋群への照射線量を大きく減量できることから、その有用性は高いと考えられる。そこで、本研究では、中咽頭癌に対する CCRT における IMRT の有用性を、唾液分泌能や味覚障害、嚥下機能等、摂食嚥下に関する QOL の観点から検討することとした。

研究の方法

神戸大学附属病院 耳鼻咽喉・頭頸部外科、神戸低侵襲がん医療センターと兵庫県立がんセンターとの共同研究として行う予定であったが、倫理委員会にて承認の得られた、神戸大学医学部附属病院 耳鼻咽喉・頭頸部外科と神戸低侵襲がん医療センターにて研究を行った。中咽頭癌と診断され初回治療で化学放射線療法を受けた患者を対象とした。本研究参加への同意が得られた患者を対象に、治療中および治療終了後の唾液分泌能や味覚障害、嚥下機能等と QOL を検討した。調査は、①治療開始前、②放射線照射 10 回目、③放射線照射 20 回目、④治療終了時、⑤治療終了から 1 ヶ月後、⑥治療終了から 3 ヶ月後、⑦治療終了から 6 ヶ月後、⑧治療終了から 1 年後に実施した。神戸大学医学部附属病院で IMRT で治療を施行した中咽頭癌患者 4 名、神戸低侵襲がん医療センター 3 名であった。

研究成果

上記の時期に QOL については EORTC QLQ-C30 と、頭頸部癌についての QOL を調査する QLQ-H&N35 のアンケートを実施した。味覚障害についてはテストディスクを行った。唾液分泌能については 10 分間の安静時唾液の量を計測した。治療終了から 1 年後までデータ収集が終了した患者が 2 名であり、その他の患者においては現在もデータ収集中である。治療終了後 1 年までデータを収集した症例 1 と 2 について図 1 から図 6 に示す。安静時唾液については、症例 1 では開始時 1cc から終了後 1 年では 0.2cc へと減少し、症例 2 では開始時 21cc から終了後 1 年では 0.2cc と減少した。QOL については改善傾向であるが、唾液分泌障害については今後も経過観察が必要である。

現在収集中の患者なども含めて今後も検討を行っていく。

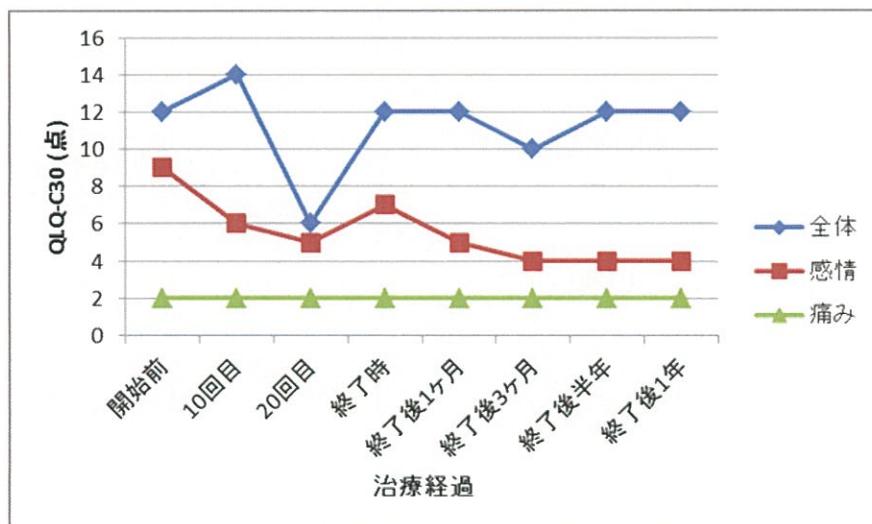


図1 症例1の治療経過におけるQLQ-C30の全体、感情、痛みのQOLについて

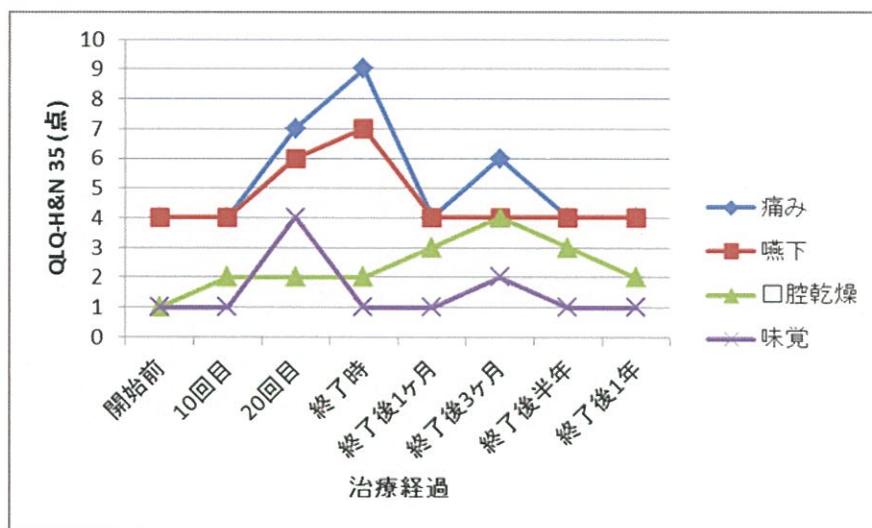


図2 症例1の治療経過におけるQLQ-H&N35の痛み、嘔下、口腔乾燥、味覚のQOLについて

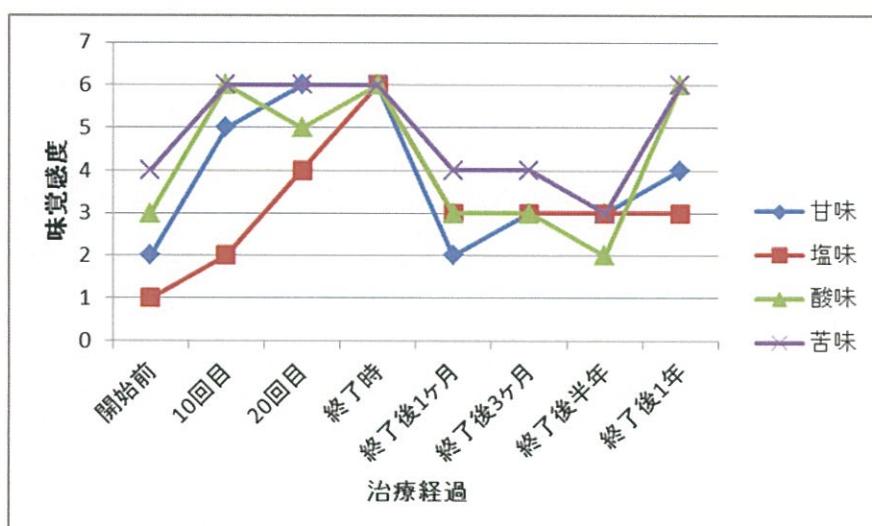


図3 症例1の治療経過におけるテストディスクの味覚感度について

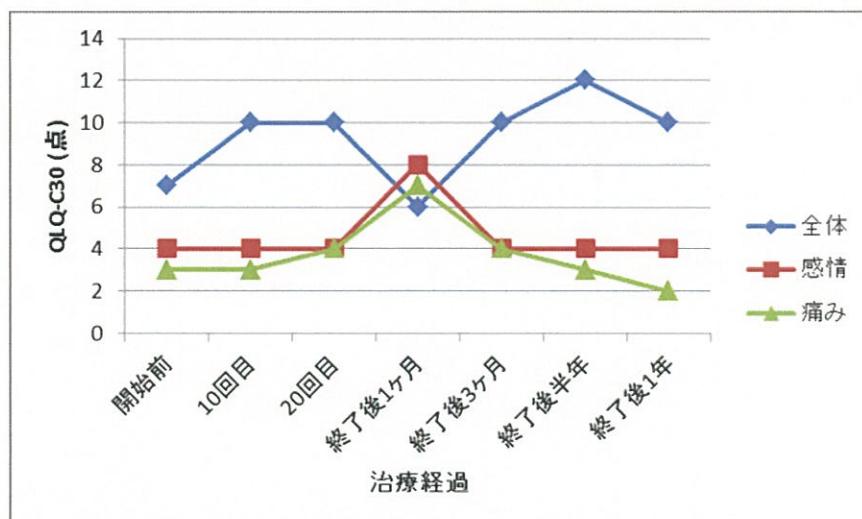


図4 症例2の治療経過におけるQLQ-C30の全体、感情、痛みのQOLについて

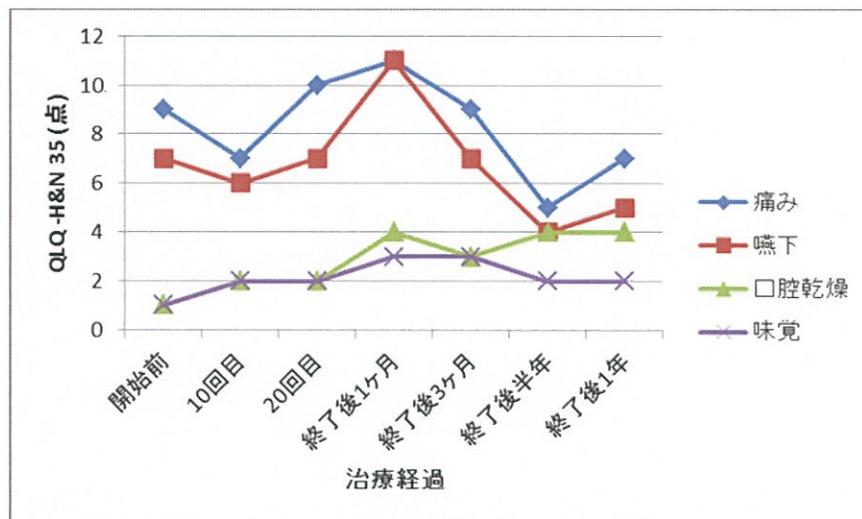


図5 症例2の治療経過におけるQLQ-H&N35の痛み、嚥下、口腔乾燥、味覚のQOLについて

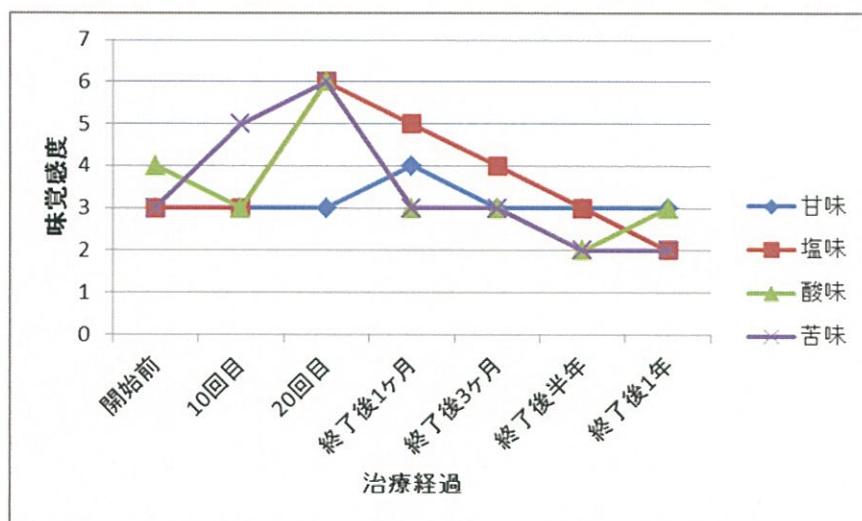


図6 症例2の治療経過におけるテーストディスクの味覚感度について